

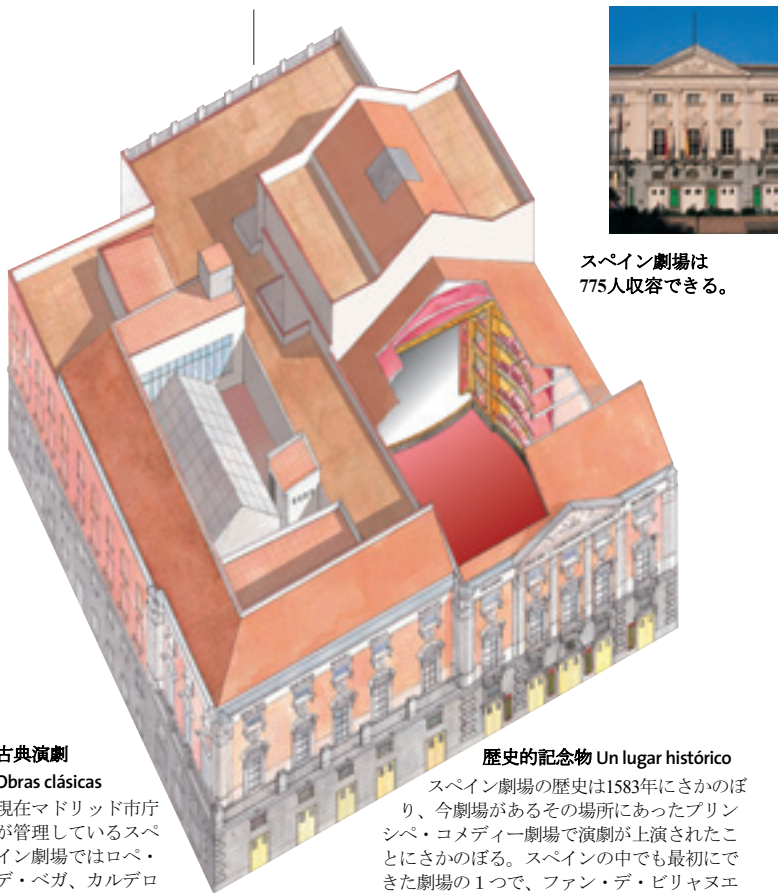
サンタ・アナ広場とその周辺

Plaza de Santa Ana y entorno

金、土曜日の夜になると市内でも最も賑やかなるラス・ウエルタス通りを上っていくと、アンヘル広場とたどりつく。この小さい、居心地のいい



広場の一角に、マドリッド市内のジャズファンの聖域ともいわれる「カフェ・セントラル」がある。アンヘル広場の横にサンタ・アナ広場がある。1810年にホセ・ボナパルテがサンタ・アナ修道院を取り壊して造った広場で、1869年にスペイン劇場の正面まで拡張された。スペイン劇場は昔のプリンシペ・コメディ劇場のあった場所にあるが、これまで何回も火事にあい、改修工事がなされ、最後の改修工事は1980年であった。劇場の前には1919年にヘスス・カラスコが計画して建てられたホテル・ピクトリアがある。ホテルの正面はガラス張りで、正面の一角にある塔が特徴的である。広場には毎週末の夜、客で一杯になるピヤホールがたくさんある。その中でも最も古い店は1904年にできた「セルベセリヤ・アレマーナ（ドイツビールの意味）」で店内は当時のままの内装が残されている。



スペイン劇場は
775人収容できる。

古典演劇

Obras clásicas

現在マドリッド市庁が管理しているスペイン劇場ではロペ・デ・ベガ、カルデロン・デ・ラバルカ、テイルソ・デ・モリーナ、ペナベンテ、ミウラなどのスペイン古典演劇が上演される。

歴史的記念物 Un lugar histórico

スペイン劇場の歴史は1583年にさかのぼり、今劇場があるその場所にあったプリンシペ・コメディ劇場で演劇が上演されたことにさかのぼる。スペインの中でも最初にできた劇場の1つで、ファン・デ・ビリャヌエバが改修工事を行い、1849年には今の姿の「スペイン劇場」となった。1976年から1980年にかけて内装が改修され、今では国の歴史記念物に指定されている。



スペインの演劇に大きく影響したペドロ・カルデロン・デ・ラ・バルカとフェデリコ・ガルシア・ロルカの像。スペイン劇場のあるサンタ・アナ広場にある。

ホテル・ピクトリアの闘牛士

Los toreros del Hotel Victoria

春の午後、サンタ・アナ広場は闘牛ファンで一杯になる。ホテル・ピクトリアから午後6時半頃になると、闘牛場（プラサ・デ・ロス・トーロス）へ歩いていく人々が見受けられる。夜になると、闘牛ファンもそうでない者もたくさん、路上のピヤガーデンに集まり、あたりはいつそう賑やかになる。



サンタ・アナ広場と賑やかなテラス

サンタ・アナ広場の周辺

En los alrededores de la Plaza Ana

エル・レティローロ通りを降りていくと、ラス・ウエルタ通り、セルバンテス通り、ロペ・デ・ベガ通りなどバーやピヤガーデンが一杯並んでいる界限に出る。生演奏が聞けるバーもあり、夕方からは特に賑やかになる。サンタ・クルス通りの方へ向かうと、数多く種類のタッパ（おつまみ）の店が並んでいる。また、その周辺の道路には伝統的な老舗もあり、たとえば、ラ・クルス通りには「カッパス・セセーニャ」という闘牛士のマントの伝統的な製造業者の1つがある。アルバレス・ガトの路地には作家のパーリュ・イン克蘭が19世紀から20世紀にかけてのスペインのゆがんだ現実を「醜いもの」と称し、インスピレーションを得た場所である。サン・ヘロニモ通りを歩くと、マドリッドで最も古いレストラン「Lhardy」がある。



ホテル・ピクトリア



マドリッドのフラメンコ

El flamenco en Madrid

マドリッドは、スペインの他地域の伝統、習慣、文化を吸収して成長してきた街だが、異質な文化を取り込みフラメンコという芸術を作り上げてしまった。もともと闘牛という文化に不随して存在したフラメンコは、アンダルシアからジプシー達をもたらしたものだ。従って、スペイン闘牛のメッカである街が、1世紀以上に渡ってフラメンコ芸術の中心だった事は決して不思議ではない。マドリッドのタブラオは世界中の観光客を魅了する場となっているがこの事がフラメンコ文化の普及、ひいては観光地としてのマドリッドのプロモートに貢献していると言える。



フラメンコの衣装と靴

Vestidos y zapatos flamencos

フラメンコを踊る際の衣装は、練習なのか、あるいは演目がブレイリアなのか、セギーリャスかアレグリアかそれともマルティネテなのかによって異なる。フラメンコの靴は履き心地がいいだけでは不十分。いい靴とは、いい音が出せて足に負担が少なく、かつ見た目がエレガントでなければならない。現在これら特殊な靴や衣装を手作りして



いる工房は少なくなっているが、マラサニャにある名人アンヘル・ブランコの工房はそのひとつだ。

フラメンコ・バル Los bares flamencos

熱狂的ファンやプロ達が集まる、真正正銘の本物を提供する場所が、マドリッド旧市街中心にいくつかある。エチェガラ通りにあるエル・カルダモモはフラメンコ・バルのパイオニアの一つで、現在の目玉はいわゆるフェーションフラメンコだ。コンサートなども催している。

マドリッドとアルテホンド Madrid y el arte jondo

マドリッドのフラメンコ場は、19世紀半ばカンテホンドを聴くだけのカフェだった時代から、20世紀になってフラメンコの一流アーティスト達が出演する様になり、そして今度は新しい世代のスター達を輩出する場所にまでなったが、いつの時代も素晴らしい演目を見せてくれた。マドリッドのタブラオがスペインの最高峰に位置付けられてから久しい。そして今日、スペインのフラメンコ関連イベントのほとんどがマドリッドで開催されている。



写真下：“難聴”のあだ名を持つマヌエル・ソト
写真左：カサ・パタスのフラメンコセッション

ナイトライフとフラメンコ

La noche y el flamenco

終わりは朝方、始まりは夜半過ぎか早くても夜から。この時間帯を合わせなければ本物のフラメンコに遭遇できない。

いくつかのタブラオを挙げれば、マヨール広場近くにはアルコ・デ・クチエーロス、トリハ通りにはカフェ・デ・チニータスがある。カニサレス通り10番にはカサ・パタス、モレリア通り17番にはコラル・デ・ラ・モレリアがある。市街中心地のメソネロ・ロマーノス通り11番にはトレス・ベルメハスが、そして市内北部ホアン・ラモン・ヒメネス通り16番にはコラル・デ・ラ・パチエカがある。



フラメンコフェスティバル

Los festivales

スペインの著名なフラメンコフェスティバルはマドリッド市内だけでなく自治州内の近郊都市でも開催されている。フェンラブラダのフラメンコフェアー、アルコベンダスのフラメンコ週間サン・フェルナンド・デ・エナーレス市が開催するフラメンコルーツを探るフェスティバル、コストラダのフラメンコナイトアルコルコンのフラメンコナイトなどが挙げられる。

